

サービス開発へ指向

和信化学工業

水系塗料に特化する和信化学工業は、木質フロア向けとして水性2液ウレタン塗料「アクレックス2液フロア」、水系1液型ウレタンディスペーション塗料「アクレックスコーティングフロア」「アクレックスフロア」をラインアップ。これに水系顔料着色剤「アクレックスネオステイン」を加え、着色から上塗りまで水系仕様を構築する。

市場動向について「需要は横ばい。水性タイプのニーズは高まっていくと見ているが、依然として溶剤系のウエイトが高い。ただ製品単体での差別化は難しい。むしろ施主のニーズは多様化しており、現行製品の提案方法を含め、サービスの在り方を変えていきたいと考えている」(担当者)と話す。

その背景にあるのが、同社お客様センターに対する問い合わせ。一般消費者から塗装業者まで年間7,000件近くの間い合わせが寄せられる中であって、フロアに対する質問が半数を超える日も多いという。「施工上の問い合わせよりも、『こんなフロアに仕上げたい』『こういう仕上げをするにはどうしたらいいか』など、施主が望むものが顕在化している」とコメント。これら施主嗜好に応えることで新しい需要が生まれるとの見方を示す。

そのため、同社は光沢仕上げや木の素材感を生かしたナチュラル仕上げ、ステインでアレンジしたアンティーク調仕上げなど、仕上がりイメージを具現化した上で、塗料選択、塗装方法を分かりやすく伝えるためのサービス展開を指向していく構えを見せる。

一方、メインマーケットとなる文教

施設向けでは、水性2液ウレタン樹脂を主軸とした販売に注力。「まだまだ溶剤系ニーズが根強いが、水性2液、3工程仕上げの採用が増えつつある」と説明。同社は肉持ち感を出しにくい水性の課題を克服するため木床塗装用具セット「T-Bar (ティーバー)」を発売。2名ペアで900㎡を1時間で塗布できる施工性の良さも受け、採用を伸ばしている。